

『韓国語教育研究』(第9号) 別刷

ISSN 2186-2044

【寄稿論文】

工科大学における韓国文化授業の実践研究
—金沢工業大学を中心に—

金 永鍾

日本韓国語教育学会

2019年9月

工科大学における韓国文化授業の実践研究 —金沢工業大学を中心に—

金 永鍾

本研究は、最近5年間の「韓国の文化と社会」の授業を受けた1年次生クラスと2年次生以上のクラスに分け、韓国文化の領域を類型別に分類したアンケート調査の内容を分析したものである。調査方法としては、文化領域を八つに大別し、各項目別下位領域に詳細に分類し、韓国文化に対する学生たちの興味度の分析を図ったものである。今回の調査で明らかになったことは、1年次生のクラスは、「精神文化と芸術文化」領域に一番高い興味を示していることである。これは最近のK-POPやドラマなどによる韓流ブームのシナジー効果と考えられる。一番興味が低い領域は、「韓国文学」である。この領域は、今まであまり接する機会がないことからこのような結果になったと思われる。2年次生のクラスは、「自然と産業技術」の領域が一番高かった。これは、自分の専門科目を少し勉強してから本科目を受けたことで「自然と産業技術」についての関心がかかなり高まったため、他の領域は変化があまりなかったことも明らかになった。日本における工科大学生に対する韓国文化授業についての具体的な内容設定はなく、教育現場に適用できる論議もまだ不足しているのが現状である。このように、韓国文化の授業内容を基に、韓国文化教育研究の方向及び課題を提示するのが本研究の目的である。

1. はじめに

最近韓国の国際的地位が高まり、韓国文化授業の学習者の要求も多様化し、専門化が進んでおり、高級化された学習者の要求を満たすためには、良質の教育を担保するための努力が重要である。そのためには体系的な枠組みの中で学習者の文化的意疎通能力を向上させる方向に行かなければならない。

文部科学省では高等教育の改革として次のように述べている。大学教育の質の向上のためには、カリキュラム編成の改善や教員の教授方法の改善等授業の質を高めるための工夫が必要である。各大学では、現在、授業の質の向上に向けて、様々な

工夫が行われている。¹その一環として、体系的かつ効果的な教育方策と合理的な教育方法を研究し、韓国文化教育が学生たちに興味を持たせることができる多様な教授方法を試み、より良い文化教育の実現を要求している。

日本で文化の考え方について、日本では戦前のドイツ学問の影響から来る文化の考え方と、戦後のアメリカの学問の影響から来る文化の考え方の相違する二つがあるということを社会学者の辻村明氏が第13回全国文化行政シンポジウム報告書の『地域づくりと文化』で指摘したことを要約すると次のようになる。

ドイツ的な考えでは、文化と文明を対立させて、文明に対して文化はどのような特徴があるか考えている。特に、二十世紀最大の社会学者マックス・ウェーバーの弟である文化社会学者のアルフレッド・ウェーバーが、文化と文明との違いを強調した。文化は熟語として精神文化というつながりであるのに対して、文明は物質文明というつながりになり、精神と質という対照が文化と文明との対照に対応している。²

これに対して、戦後、アメリカから入ってきた文化人類学においては、大概未開社会の小さな部族を全体的に観察する方法をとる。現代社会は非常に規模が大きくて、条件もいろいろ複雑に絡むため、社会の全体像をつかむことが非常に難しい。そこで文化人類学は、社会全体が非常にシンプルな未開社会で、全体的な観察をするのである。この文化人類学で取り上げる文化は、生活様式といったものである。この生活様式で文化を捉えると、文化のない社会というものはない。どのような未開社会においても、どれほど古代にさかのぼっても、必ず文化は存在する。

また一つの説を引用すれば、綾部恒雄氏は『文化人類学と人間』³で文化を把握する方法として①技術の文化、②価値の文化、③社会の文化、④言語の文化という四つの視点を挙げている。一般的に、文化教育は言語教育において行うと言われて、学習者個々の自国文化の背景、学習段階、学習目的と個人の性向によって相違が生じるのである。グローバル時代に文化教育を学ぶ重要性が浮上している中で、教師らの韓国文化の知識と教授力の必要性を学界が主張する半面、現場の教員の文化知識と教授能力が追い付いていないのが事実である。そのために学習者の要求をアン

¹ 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/hpad199501/hpad199501_2_016.html

² 王少鋒(2000).『日・韓・中三国の比較文化論』明石書店.(pp.9-10)。

³ 綾部恒雄(1995).『文化人類学と人間』三五館、12、(P.51)。

ケートから分析し、何を教授・学習するのかを定め、その文化アイテムを分類・選定しながら、どのように教えるかが常に悩みとなっている。それゆえ、以前の一方的で非体系的な文化教育から脱し、学習者中心の体系的な韓国文化教育の基礎資料を提示することを目的と定めたのである。

2. 研究方法及び内容

グローバル文化教育の構想は2004年からであり、この年は金沢工業大学の既存の工学部13学科3学部（工学部、情報フロンティア学部、環境建築学部15個学科改編）の時期である。この時期、修学基礎教育課程を含めた基礎教育部は、3学部に通講課程として運営していた。

基礎教育課程の教育目標の一つである「国際感覚」への関心を持ち始め、「ドイツ語圏と日本」、「環太平洋諸国社会と文化」(現在は、「東アジア諸国の社会と文化」)、「アメリカの文化と風土」、「イギリス文化圏人々と風土」が開講された。その後、筆者が赴任（2006年）して2年後の2008年度から修学基礎教育課程に所属し、外国語教育課程を英語教育課程に変更し、ドイツ語・中国語などの担当者が修学基礎教育課程に移動した。そしてこの年から筆者の「生涯教育特別講義（韓国語）」及び「韓国の文化と社会」が開設された。教養教育として技術的な教育だけでなく、これからの世界化と国際文化の理解を広げるなど改善したものと思われる。

2.1 学習支援計画書（e-シーラバス）

大学生に基本的な修学能力を育成するためには、自ら修学計画を立案・実行していく学習スタイルを構築する必要がある。そのために、各授業科目の目標や教育内容などを明示した学習支援計画書（シーラバス）を公開し、教育内容をオープンしている。また、各学期の最終講義や各講義時間中の自己点検では、学習支援計画書に明記している「学生が達成すべき行動目標」について各自の達成度を確認をしている。これは、学習のフォローや熟達度の向上、更に意欲開発につながる場合もある。最後の時間に授業アンケート調査を行い、授業実施内容についての意見を聞き、学生と教員間のコミュニケーションや授業内容の充実化を図っている。学習支援計画書は次のとおりである。

本学の学習支援計画書は、①科目の基本的な情報である単位数や開講学期、②科目担当者の情報、③学習教育目標とキーワード及び授業の概要、④授業で使用される教科書又は参考、⑤履修前に必要とする知識や機能など、⑥学生の行動目標と教育プログラムの内容と教育目標との関係、⑦評価の方法と割合、⑧総合力指標で示す数値、(授業運営上考慮する総合力に対して大まかな基準)、⑨使用される評価方法ごとの行動目標との関係と評価実施方法や注意点など具体的な内容、⑩該当科目で記載される理想的な達成レベルとスタンダードな達成レベル、⑪授業の各回の内容、以上の 11 項を明示している。レポートや学習課題、予習・復習の内容も学習時間と一緒に分かりやすく記載している。

2.2 e-シラバス

e-シラバスは学習支援計画書と連動するシステムとなっており、科目によってe-シラバス上に、詳細な授業内容や教材や課題などの情報が明示されている。予習・復習も活用して学ぶ過程や自ら成長を振りかえて見られるため、更なる成長の足掛かりとして利用されている。大学の設置基準第21条の2-1,2,3に定めている。1単位の取得条件は、① 15時間の授業、② 15時間の予習、③ 15時間の復習、④大学で行う各試験に合格すること、⑤教員は成績評価を大学は単位を認めるものである。⁴

3. 韓国文化教育目的および目標設定

韓国文化教育のための教育目的を設定することは、教育的側面から文化に接近する最も重要な作業に当たる。文化についてなぜ、何のために、誰に対して、どのように、何を教育するかという考察は最も重要なことである。また、韓国文化教育のためには前提となるべき項目が多い。韓国文化の文脈化 (contextualization) と概念化 (conceptualization)⁵などがこれに該当する。したがって、文化教育の目的を設定するためには、文化の概念や性格を先に把握し、その中から教育的価値のある内容

⁴ 大学設置基準

[http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/053/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/10/30/132594_3_02_3_1.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E8%A8%AD%E7%BD%AE%E5%9F%BA%E6%BA%96+%E5%8D%98%E4%BD%8D%E8%AA%8D%E5%AE%9A'](http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/053/gijiroku/_icsFiles/afieldfile/2012/10/30/132594_3_02_3_1.pdf#search=%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E8%A8%AD%E7%BD%AE%E5%9F%BA%E6%BA%96+%E5%8D%98%E4%BD%8D%E8%AA%8D%E5%AE%9A)

⁵ 문맥화 개념화의 용어는 V.Tikhonov(박노자)의 「한국문화교육의 현황과 문제점」(국제한국어교육학회 새천년맞이 제 10 차 국제학술회의,1999)에서 제시된 것이다.

を選定しなければならない。そのうえで韓国文化の特性を探し、それを中心に文化教育を行う必要がある。文化は人間の生甲斐の総体であり、その領域や性格が非常に複雑で広範囲である。韓国文化も多様に存在しているため、どのような基準を適用するかによって分類も多様である。しかし、外国人に多様な文化の全てを教育対象として適用することはできない。したがって、対象が工学系学生であるため、社会に出た際、ビジネスレベルで価値ある文化が何かを考え、韓国文化教育を行うべきである。

文化を定義して分類する作業は、昔から多くの学者たちによって試みられた。これらの文化の定義を見てみると、人間の生活の総体物という主張と、人間生活の様式、象徴された意味の体系、ある社会的力、あるいは自ら変化する力を持つ存在、具体的実態などで要約される。もっと具体的実体で要約されると精神的な文化と物質的な文化、精神と物質に内在し、二つの文化（精神、物質）間の関係文化で区分できる。⁶ 朴英順は、精神文化、言語文化、芸術文化、生活文化、制度文化、学問文化、産業技術文化に分類した。⁷

文化教育の目標では、チョ・ハンロク、キム・ジョンスク、イ・ジンスク、パク・ヨンスンが提示した教育目的を実践することができる教育目標は、学習者の韓国文化に対する知的能力、正義的能力の伸長、韓国文化に対する価値理解および親しい態度、文化再創造および共同体の生活に寄与できる学習意志に焦点を当てて設定した。⁸

このように設定された韓国文化教育目標は、学習者レベル別、学習領域別、学習者出身地域別に再び細分・区別して教育し、これを具体的に反映した教材や媒体を開発することが非常に重要である。これまで主に韓国語教育での文化教育の重要性を強調しているが、言語教育と文化教育を分離して教える場合、どのような項目を適用すべきかについては、研究が不十分であると言える。

本調査では、文化領域を大きく八つに分け、下部領域を39個に分けて設問調査を行った。学習教育目標を、「日本と近くて関係深い隣国である韓国文化と社会に対

⁶ 권오경(2006). 「한국어교육에서의 한국문화교육의 방향」, 한국문화언어학회 『어문논총』 45호(pp.397-399).

⁷ 박영순(2006). 「한국어교육을 위한 한국문화론」, 한림출판사.(pp.14-28).

⁸ 강승혜 외(2010). 「한국문화교육론」, 형설출판사.(pp.36-48).

して学ぶ」 「韓国文化と社会に対する興味を高め理解を増進させ究極的には文化間意思疎通能力を養うことができるとし、重点的には、①韓国の伝統文化の理解(歴史も含む)、②韓国の大衆文化の理解、③韓国の生活文化の理解、④韓国の余暇文化の理解、を目標としている。

授業の概要及び学習上の助言として、韓国人と韓国の文化を総体的に理解し、これを基に多文化に対する受け入れと理解することによって文化間の疎通の機会を提供するとともに究極的には人類が共に生きていく共存共栄の道を探索する。また、文化学習を達成するために、衣食住などの韓国の伝統文化、K-POP に代表される大衆文化、遊びや観光を中心とした余暇文化、韓国のライフスタイルなどを比較しながら相互理解した上で、意思疎通能力を培うことが目的である。

学生が達成すべき行動目標として、①伝統文化を理解し活用することができる、②アイドル文化を通じた大衆文化を理解することができる、③テレビ芸能プログラムを活用した余暇文化を知ることができる、④トレンドドラマを活用した生活文化を理解することができる、⑤本科目における学生の達成すべき行動目標を自己評価できる、を設定している。

4. 教育内容

本科目の授業は、16週2単位で90分授業を実施している。2019年度からは15週100分授業を実施している。学習内容は次のとおりである。

CLIP 学習プロセスについて、一般に、授業あるいは課外での学習では：「知識などを取り込む」→「知識などをいろいろな角度から、場合によってはチーム活動で、考え、推論し、創造する」→「修得した内容を表現、発表、伝達する」→「総合的に評価を受ける、GoodWork!」：このようなプロセス（一部あるいは全体）を繰り返し行いながら、応用力のある知識やスキルを身に付けていくことが重要です。このような学習プロセスを大事に行動してくださいと記載している。

※学習課題の時間欄には、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習時間全体としては、各授業に応じた時間（例えば2単位16週科目の場合、予習2時間・復習2時間/週）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

「達成度評価」と「評価の要点として」は次のようである。

達成度評価										
指標と評価割合		評価方法	試験	クイズ/小テスト	レポート	成果発表 (口頭・実技)	作品	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			40	15	25	10	0	5	5	100
総合 力 指 標	知識を取り組む力		30	5	10	2	0	0	0	47
	思考・推論・創造する力		10	5	10	2	0	0	0	27
	コラボレーションとリーダーシップ		0	0	0	2	0	0	0	2
	発表・表現・伝達する力		0	0	0	2	0	0	0	2
	学習に取り組む姿勢・意欲		0	5	5	2	0	5	5	22
※総合力指標で示す数値内訳は、授業運営上のおおよその目安を示したものです。										

評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点
試験	① レ	1. 【振り返り】試験、第8回目の授業時に実施する(範囲、第1回目から第7回目の授業で学習した事柄から出題される。 2. 「達成度確認試験」15回目の授業時に実施する。今学期中に学習した全範囲から出題される。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥ レ	
小テスト	① レ	授業時間のDVD内容について感想文や小テストを行う。 第3回、第4回、第5回、第7回、第11回目の時間
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥ レ	
レポート	① レ	1. 第1回目の授業時に、「レポートについて」プリントを配布して レポートの様式、注意事項及び提出期日などについて説明を行う。期限厳守 第I：韓国の世界文化遺産と日本の世界文化遺産について調査しその特徴を調べる。(第4回目提出) 第II：今日の韓国社会はどのような歴史と文化によって形成されてきたかについて (第9回目提出) 第III：①第2回目学習課題、②第3回目の学習課題、③第6回目の学習課題、 ④第11回目の学習課題、⑤第12回目の学習課題。(注:各提出日は次の授業時間始まる前まで)
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥ レ	
(口頭・実技)	①	第14回目にチーム別レポート発表会
	② レ	
	③	
	④ レ	
	⑤	
	⑥	
作品	①	「学生の行動目標」を学生各自がどれくらい達成できたかを確認する。第15回目にプリントアウトしたものを提出する。提出した学生には、5点加点する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥	
ポートフォリオ	① レ	授業中に学習した内容に関して、担当者から課された課題の提出状況や取り組みの状態、および授業時間の態度の観点から評価する。
	② レ	
	③ レ	
	④ レ	
	⑤ レ	
	⑥	
その他	①	
	②	
	③	
	④	
	⑤	
	⑥	

具体的な達成の目安

理想的な達成レベルの目安	標準的な達成レベルの目安
自他の文化がわかる。 多様な文化を適用できる。 多様な文化的背景をもつ人とつながる。 グローバル社会の特徴や課題がわかる。 21世紀スキルを運用できる。 グローバル社会とつながる。	日本と韓国の文化の類似点や相違点について、自分の観点・意見・社会観を交えて文章や口頭で的確に表現できる。

授業明細表

回数 日付	学習内容	授業の運営方法	学習課題(予習・復習) 時間(分)※
1回 /	教員の紹介を行う。 授業ガイダンス解説と科目の概要説明 韓国の文化と社会の領域 韓国概観	講義と質疑応答	韓国の歴史についてしらべる ・第IIレポートについて考える 90
2回 /	韓国の歴史、p. 283-294 韓国の伝統文化、p. 133-180	課題の討論と発表 授業と質疑応答	学習内容を整理する 第III-① 1. 韓服の美しいさと洋服の実用性を比較 2. バンソリで歌手、広大、唱、名唱、アニリについて調査する 60
3回 /	韓国の服:韓服、(小1) 韓国の民謡:アリラン バンソリ・サムルノリ	韓服(DVD16分)・民謡(DVD30分)、授業と質疑応答 バンソリ・サムルノリ(DVD)	学習内容を整理する 第III-② 1. 世界の活字の発達について調査 90
4回 /	韓国の古活字と印刷文化、(小2) 韓国の精神文化 学習課題発表	印刷文化(DVD20分)、授業と質疑応答	学習内容を整理する ・韓国の世界文化遺産第Iレポート作成、陶磁器文化 90
5回 /	韓国の世界文化遺産、p. 203-220、(小3) 陶磁器文化、p. 38	世界文化遺産(DVD25分) 高麗青磁(DVD25分)、授業と質疑応答	学習内容を整理する 大衆文化(K-POP)の概念と特徴 韓流、芸術文化 60
6回 /	韓国の芸術文化(音楽、美術、映画)、p. 30-31 韓国の大衆文化⇒アイドル文化(K-POP)、p. 57-94 大衆音楽とスター	最新K-POPの公演感想 授業と質疑応答	学習内容を整理する 第III-③ 言語の概念と特性 ハングルの歴史と構造について調査する 60
7回 /	言語文化(ハングル)、p. 15、 言語の概念と特性(小4) デジタル新世代	授業と質疑応答	学習内容を整理する 今までのまとめと試験準備 120
8回 /	【振り返り】試験	1回から7回までの講義内容についての確認試験	学習内容を整理する。 余暇の概念と変遷と現況 観光の概念と変遷と現況 ・第IIレポート提出準備 60
9回 /	韓国の余暇と観光文化 余暇の概念と変遷と現況 韓国の観光文化 観光の概念と変遷と現況	授業と質疑応答	学習内容を整理する 経済の変遷-経済文化の特性と意識 科学技術の変遷-科学技術文化の特性と意識 60
10回 /	韓国の経済と科学技術 経済の変遷-経済の特性と意識 科学技術の変遷-科学技術の特性と意識	授業と質疑応答	学習内容を整理する 韓国のドラマや映画を感想する 90
11回 /	Korean Musicalを見ながらストーリー作成 韓国人のライフスタイル トレンドイードラマを活用する。(小5)	映画感想 韓国の映画感想のお話 授業と質疑応答	学習内容を整理する 第III-④ 1. アパートと韓屋比較 60
12回 /	韓国人の生活、p. 32-34、p. 157-202 職業と職場生活	授業と質疑応答	学習内容を整理する 第III-⑤ 1. 日韓の各種制度の比較調査 90
13回 /	韓国の制度、p. 95-112、(朝鮮、p. 259-282) 教育、行政、法、他	授業と質疑応答 課題紹介発表討論	学習内容を整理する 発表準備の点検 60
14回 /	韓国の文化領域別チームレポート発表会	チーム別発表会 発表と質疑応答	学習内容を整理する 試験の準備 ポートフォリオ提出準備 120
15回 /	達成度試験	授業内容全般についての確認 試験	自己点検準備 出席、課題提出状況点検 60
16回 /	自己点検授業	達成度確認試験の解答と解説 および質疑応答成績告示	達成度確認試験を点検し、本科目の学習内容の全般について確認をする。 60

5. アンケート調査内容と回答結果

「韓国文化と社会」を受講した学生を対象に、アンケート調査を実施した。今回集計を行ったのは、2014年から2018年の5年間、大領域情報を平均化したことを表1.に表示したものである。

表 1. 5年間の興味を持つ大領域の平均

韓国の精神文化	118	248	159	141	245	216	143	366	382	382	353	401	436	3590	276.15	12%
言語文化	102	243	121	167	258	264	110	379	484	484	447	440	480	3959	304.54	13%
芸術文化	118	302	155	198	328	328	149	464	580	580	514	564	558	4838	372.15	16%
制度	92	193	137	141	228	207	104	307	342	342	410	375	385	3263	251.00	11%
歴史	97	239	125	178	290	234	110	389	508	508	489	402	421	3970	305.38	13%
文学	59	177	86	89	181	164	62	257	306	306	272	245	272	2476	190.46	8%
自然と産業技術	140	279	178	211	307	287	159	497	485	485	566	571	525	4690	360.77	15%
文化財	101	227	118	164	217	249	99	347	366	366	425	426	395	3500	269.23	12%
合計	827	1908	1079	1289	2054	1949	936	2986	3453	3453	3476	3424	3452	30286	2329.69	

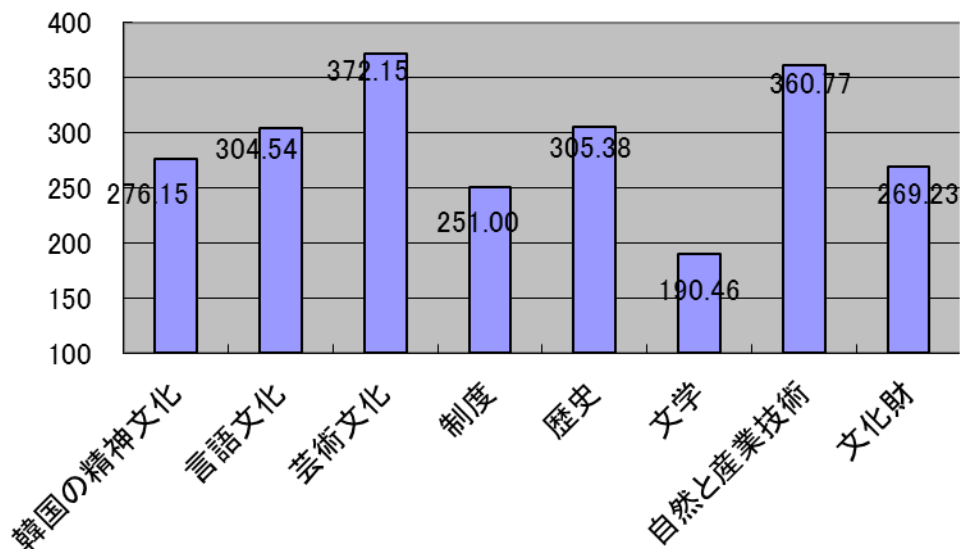


表1.で「韓国の芸術文化」について興味ある学生が最も多く、次に「韓国の自然と産業技術」、「韓国人の言語文化」の順であり、また受講した学生が最も興味が低い領域は「韓国文学」である。

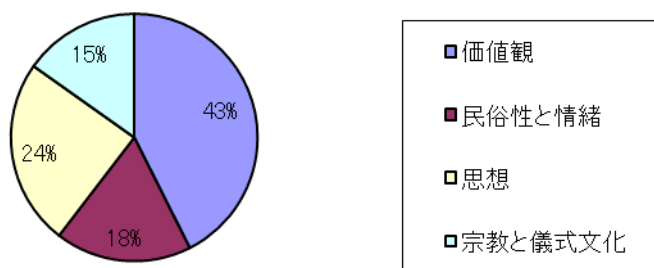
5.1 大領域で小項目平均値

大領域「韓国の精神文化」は四つの小領域に分けられた。これに対する受講生たちの興味は表2のように「韓国人の価値観」について興味ある学生が半数を示したことがわかる。その次の結果は、「韓国人の思想」だが、他の二つの項目が同じ数値である。

表2. 韓国の精神文化

韓国の精神文化	110	240	159	141	245	216	143	366	382	382	353	401	436	3590	276.2	12%
価値観	13	9	16	20	27	25	21	32	41	22	42	52	47	367	28.2	43%
民俗性と情緒	7	7	13	8	9	10	6	15	19	6	21	17	16	154	11.8	18%
思想	8	4	13	16	11	19	7	21	24	11	24	26	26	210	16.2	24%
宗教と儀式文化	1	5	6	8	16	11	2	15	13	9	15	12	18	131	10.1	15%
小項目選択者合計	29	25	48	52	63	65	36	83	97	48	102	107	107	862	66.3	

表2. 韓国の精神文化

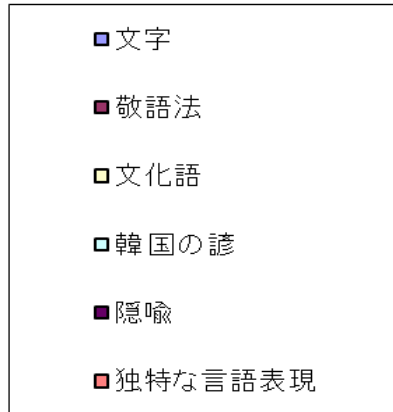
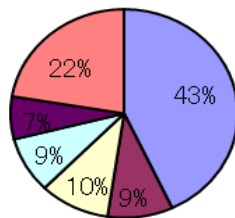


大領域「韓国人の言語文化」は六つの小項目に分類され、これに対する受講生の興味は表3.のようである。「韓国語の文字」に興味のある学生が半数を示しており、その次に多いのは「韓国の独特な言語表現」で22%である。次の4項目については類似の割合である。

表3. 韓国人の言語文化

韓国人の言語文化	102	243	121	167	258	264	110	379	484	484	447	440	480	3859	304.5	13%
文字	9	13	10	23	28	38	18	39	54	31	53	57	49	422	32.5	43%
敬語法	2	4	7	8	5	5	0	9	10	3	12	15	11	91	7.0	9%
文化語	3	5	3	9	1	6	1	6	15	3	16	17	13	98	7.5	10%
韓国の諺	4	2	7	6	4	8	2	12	6	6	12	7	9	85	6.5	9%
隠喩	2	5	3	3	7	8	1	7	5	2	9	6	7	65	5.0	7%
独特な言語表現	2	10	7	13	13	17	7	24	24	11	28	35	28	219	16.8	22%
小項目選択者合計	22	39	37	62	58	82	29	97	114	56	130	137	117	800	75.4	

表3. 韓国人の言語文化

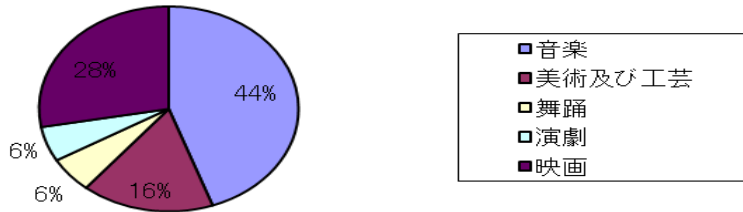


次は、「韓国の芸術文化」で受講した学生に最も人気のある領域である。五つの小項目について表4.の結果は次のとおりである。特徴的であるのは、「韓国の音楽」で約半の44%を示しており、「映画」、「韓国の美術および工芸」で残りの割合を示している。

表4. 韓国の芸術文化

韓国の芸術文化	116	302	155	198	328	328	149	464	580	580	514	564	558	4838	372.2	16%
音楽	12	14	15	24	27	30	18	48	66	29	48	69	59	459	35.3	45%
美術及び工芸	4	2	10	15	11	15	9	18	11	11	22	23	19	170	13.1	16%
舞踊	3	2	0	3	1	11	3	4	6	1	13	5	6	58	4.5	6%
演劇	0	1	1	5	5	9	0	3	7	2	9	6	9	57	4.4	6%
映画	9	9	10	18	21	29	8	27	31	14	42	34	35	287	22.1	28%
小項目選択者合計	28	28	36	65	65	94	38	100	121	57	134	137	128	1031	79.3	

表4. 韓国の芸術文化

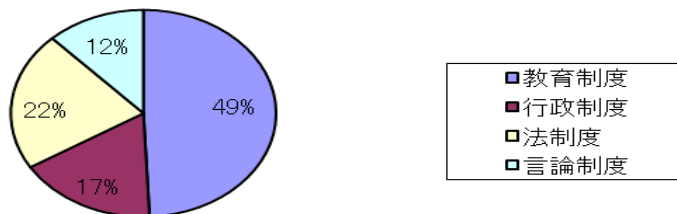


大領域「韓国の制度」は四つの小領域で構成されており、これに対する受講生たちの興味度は、表 5.である。「教育制度」に対する興味を持つ学生が半分を示している。次に法制度、行政制度順になっている。

表 5. 韓国の制度

韓国の制度	92	193	137	141	226	207	104	307	342	342	410	375	365	3263	251.0	11%
教育制度	11	9	14	30	22	35	15	39	44	23	43	50	36	371	26.5	49%
行政制度	3	5	8	8	5	12	4	14	11	8	22	18	10	128	9.8	17%
法制度	4	8	9	7	9	12	7	14	16	8	23	22	24	163	12.5	22%
言論制度	4	3	7	4	5	3	3	13	13	5	11	10	10	91	7.0	12%
小項目選択者合計	22	25	38	49	41	62	29	80	84	44	99	100	80	753	57.9	

表5. 韓国の制度

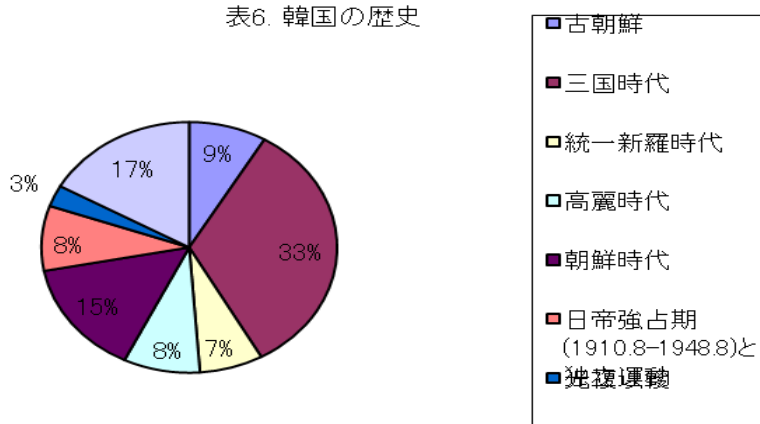


大領域「韓国の歴史」は八つの項目で、これに対する受講生たちの興味は、表 6. である。「三国時代」について興味を持った学生が最も多かった。次に「1980 年以後」、「朝鮮時代」順だが、その他の小項目は 10%以下だった。

表 6. 韓国の歴史

韓国の歴史	97	239	125	178	290	234	110	369	508	508	493	402	421	3970	305.4	13%
古朝鮮	3	1	4	4	6	9	1	9	17	1	9	8	5	77	5.9	8%
三国時代	10	4	5	19	24	20	10	40	34	18	54	37	28	303	23.3	33%
統一新羅時代	2	1	1	6	3	8	2	5	8	3	15	6	3	63	4.8	7%
高麗時代	2	1	1	5	4	10	3	6	11	3	15	9	6	76	5.8	8%
朝鮮時代	5	2	5	10	6	13	6	13	20	4	19	16	15	134	10.3	15%
日帝強占期(1910.8-1948.8)と独立運動	4	4	4	4	8	4	2	7	8	4	12	5	10	76	5.8	8%
光復以後	0	2	1	0	2	2	1	3	4	0	4	4	2	25	1.9	3%
1980年代以後	2	7	5	13	8	18	4	12	26	10	12	20	16	153	11.8	17%
小項目選択者合計	28	22	26	61	61	84	29	95	128	43	140	105	85	907	69.8	

表6. 韓国の歴史



大領域「韓国文学」は最も人気がない領域である。この領域は四つの小項目に分かれており、これに対する受講生たちの興味は、表7.である。半数が「現代文学」を選び、反して「開花期文学」に興味を持つ学生は8%で最も低かった。

表7. 韓国の文学

韓国の文学	59	177	86	89	181	164	62	257	306	306	272	245	272	2478	190.5	8%
古典文学	3	0	3	5	4	11	3	9	11	2	13	7	4	75	5.8	15%
開花期文学	1	0	0	1	1	7	2	5	5	1	7	10	1	41	3.2	8%
現代文学	8	6	8	22	18	22	12	26	31	19	25	31	25	253	19.5	51%
文学と文化教育	2	4	8	6	9	16	3	14	16	8	13	17	9	125	9.6	25%
小項目選択者合計	14	10	19	34	32	56	20	54	63	30	58	65	39	494	38.0	

表7. 韓国の文学

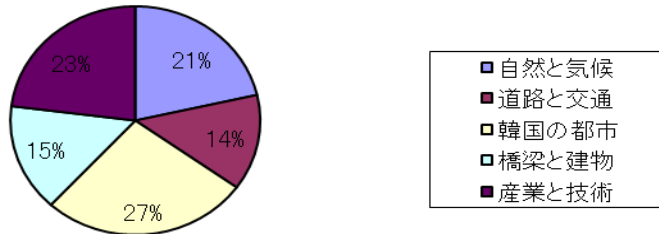


大領域「韓国の自然と産業技術」は「韓国の芸術文化」の次に人気のある領域である。この大領域は五つの小項目に分かれており、これに対する受講生たちの興味は、表8.である。珍しい点は、他の大領域と比べると小項目全て均等に学生たちが興味を持っていることである。これは工科大学に入学した学生たちが関心を持つ分野が、産業技術全般にわたっていることを証明していると言える。

表8. 韓国の自然と産業技術

韓国の自然と産業技術	140	279	178	211	307	287	159	497	485	485	568	571	525	4690	360.8	15%
自然と気候	6	8	10	15	25	26	6	33	23	13	45	34	26	270	20.8	21%
道路と交通	3	7	12	10	8	12	3	19	16	10	17	24	30	171	13.2	14%
韓国の都市	4	14	18	19	14	33	12	35	45	12	43	48	42	339	26.1	27%
橋梁と建物	6	5	4	12	8	25	6	16	26	12	24	30	18	192	14.8	15%
産業と技術	8	8	13	15	18	15	13	32	28	21	39	41	39	290	22.3	23%
小項目選択者合計	27	42	57	71	73	111	40	135	138	68	168	177	155	1262	97.1	

表8. 韓国の自然と産業技術

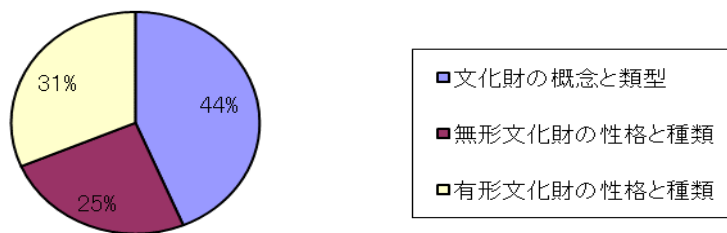


大領域「韓国の文化財」は、3つの小項目に分かれており、これに対する受講生の興味は、表9.である。「文化財概念と類型」に興味を持つ学生が最も多いことが分かった。しかし、3項目全て似た割合で現われた。

表9. 韓国の文化財

韓国の文化財	101	227	118	164	217	249	99	347	366	366	425	426	395	3500	269.2	12%
文化財の概念と類型	9	9	9	19	18	20	11	31	42	21	39	35	18	281	21.6	44%
無形文化財の性格と種類	4	4	7	12	7	17	3	19	15	7	18	28	19	160	12.3	25%
有形文化財の性格と種類	6	6	9	14	9	27	7	23	13	9	21	36	22	202	15.5	31%
小項目選択者合計	19	19	25	45	34	64	21	73	70	37	78	99	59	643	49.5	

表9. 韓国の文化財



5.2 専攻別比較

5.2.1 大領域に対するクラス比較

表 10 は、大領域に対する興味については、全てのクラスがほとんど同じであることが分かった。また、確かに人気のある領域はなく、クラスによって最も人気のある領域は違うことが分かる。特に、「韓国の自然と産業技術」と「芸術文化」は全てのクラスで興味を持っている学生が多いことが分かる。しかし「韓国文学」は、全てのクラスで最も人気が低くて全体の 10% 以下に現れている。クラスによって特に大きな相違が表れたのは「韓国文化と精神」と「韓国の歴史」の 2 項目であった。

表 10. 興味ある大領域推移

	2014-1	2014-2	2015-1	2015-2	2016-1	2016-2(火)	2016-2(水)	2017-1	2017-2(火)	2017-2(水)	2018-1	2018-2(火)	2018-2(水)
韓国の精神文化	14%	13%	15%	11%	12%	11%	15%	12%	12%	11%	11%	10%	12%
韓国人の言語文化	12%	13%	11%	13%	13%	14%	12%	13%	14%	14%	13%	13%	13%
韓国の芸術文化	14%	16%	14%	15%	16%	17%	16%	16%	17%	17%	15%	16%	16%
韓国の制度	11%	10%	13%	11%	11%	11%	11%	10%	10%	10%	12%	11%	11%
韓国の歴史	12%	13%	12%	14%	14%	12%	12%	12%	15%	15%	14%	12%	12%
韓国の文学	7%	9%	8%	7%	9%	8%	7%	9%	9%	9%	8%	7%	8%
韓国の自然と産業技術	17%	15%	16%	16%	15%	15%	17%	17%	14%	14%	16%	17%	15%
韓国の文化財	12%	12%	11%	13%	11%	13%	11%	12%	11%	11%	12%	12%	11%

表 10. 興味ある大領域推移

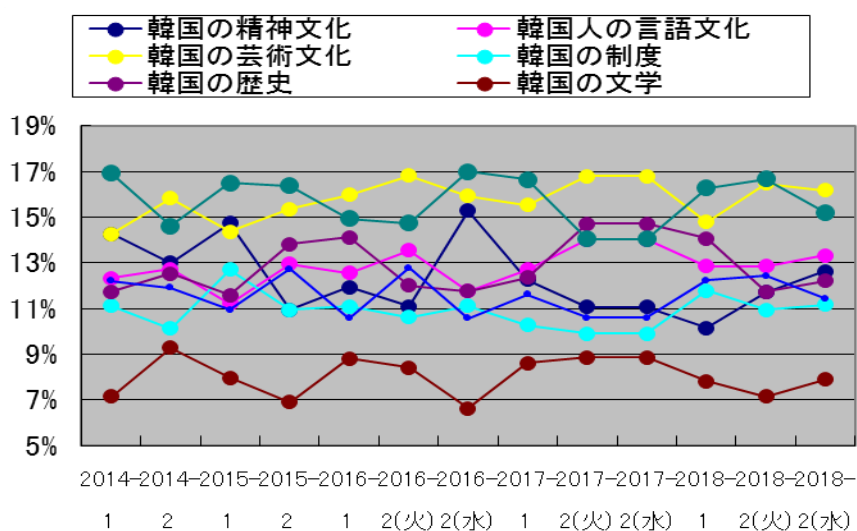


表 11.と表 12.は、表 10.の開講クラスを学年別に再分類したものである。「韓国の文化と精神」について、2 年次クラスは右に行くともますます低下し、年々興味を持つ割合が減少傾向で現われた。1 年次クラスは変則的であり、「韓国の歴史」については、学年別に再分類による特徴ある傾向は現れなかった。学年別の特徴としては、2 年次クラスで受講した学生は、「韓国の自然と産業技術」に対して興味を持っている学生が全てのクラスで高く評価されている。一方、1 年次クラスで受講した学生は、「韓国の芸術文化」について興味を持っている学生が高い評価が表れている。これは専門教育を受けていない状態で現れた現象と言える。本学の各学部学科および学系の記号は次のとおりである。

表11. 平成30年度の入学生

学部	学科	記号
工学部	機械工学科	EM
	航空システム工学科	EA
	ロボティクス学科	ER
	電気電子工学科	EL
	情報工学科	EP
	環境土木工学科	EV
情報フロンティア学部	メディア情報工学科	FM
	経営情報学科	FS
	心理学科	FY
環境・建築学部	建築学科	AA
バイオ・化学部	応用化学科	BC
	応用バイオ学科	BB

*所属クラスの表記例：1EL-1(1年次工学部電気電子工学科1組1番)

表12. 平成24年度～平成29年度の入学生

学部	学系	学科	記号
工学部	機械系	機械工学科	EM
		航空システム工学科	EA
		ロボティクス学科	ER
	電気系	電気電子工学科	EE
		電子情報通信工学科	ET
情報工学系	情報工学科	EP	
情報フロンティア学部	情報フロンティア系	メディア情報工学科	FM
		経営情報学科	FS
		心理情報学科	FP
環境・建築学部	建築系	建築デザイン学科	VS
		建築学科	VA
	環境系	環境土木工学科	VE
バイオ・化学部	バイオ・化学系	応用化学科	BC
		応用バイオ学科	BB

*所属クラスの表記例：2EE-1(2年次工学部電気電子工学科1組1番)

表 13. 年次別クラスで受講した学生

学年別に比較(年)	2014 (1全)	2015 (1全)	2016 (1EE,ET,V)	2016 (1EM,EA,ER,EP)	2017 (1EE,ET,V)	2017 (1EM,EA,ER,EP)	2018 (1EE,ET,V)	2018 (1EM,EA,ER,EP)	2014 (2EE,ET,EP)	2015 (2EE,ET,EP)	2016 (2EE,ET,EP)	2017 (2EE,ET,EP)	2018 (EM,EA,ER)
韓国の精神文化	13%	11%	11%	15%	11%	11%	12%	13%	14%	15%	12%	12%	10%
韓国人の言語文化	13%	13%	14%	12%	14%	14%	13%	13%	12%	11%	13%	13%	13%
韓国の芸術文化	16%	15%	17%	16%	17%	17%	16%	16%	14%	14%	16%	16%	15%
韓国の制度	10%	11%	11%	11%	10%	10%	11%	11%	11%	13%	11%	10%	12%
韓国の歴史	13%	14%	12%	12%	15%	15%	12%	12%	12%	12%	14%	12%	14%
韓国の文学	9%	7%	8%	7%	9%	9%	7%	8%	7%	8%	9%	9%	8%
韓国の自然と産業技術	15%	16%	15%	17%	14%	14%	17%	15%	17%	16%	15%	17%	16%
韓国の文化財	12%	13%	13%	11%	11%	11%	12%	11%	12%	11%	11%	12%	12%

表 13.1. 1年次クラス領域別比較

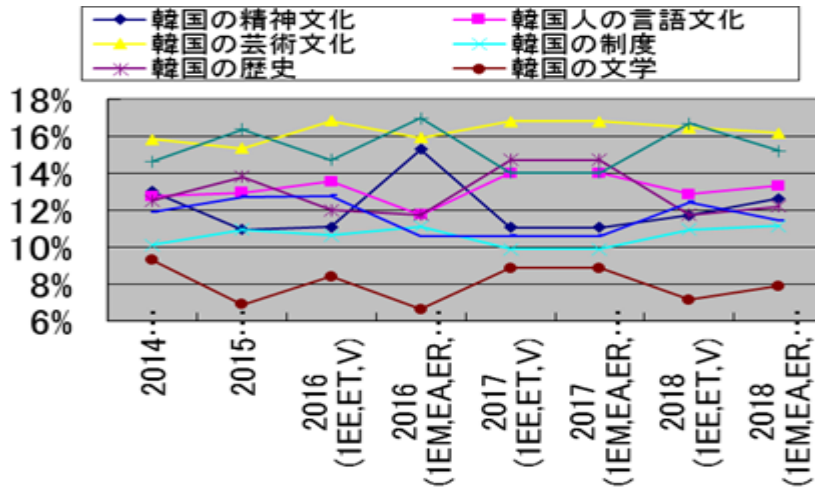
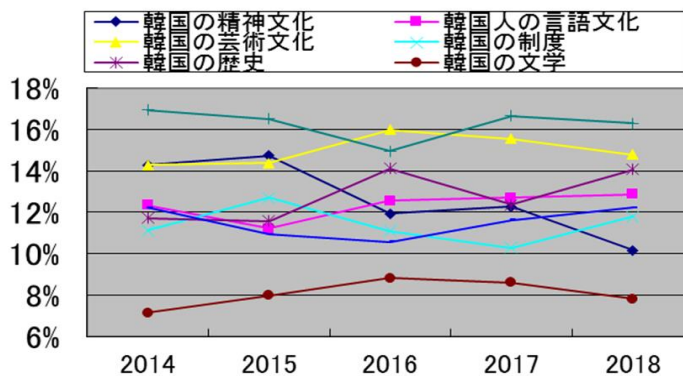


表 13.2. 2年事クラス領域別比較



6. おわりに

今回の調査で明らかになったことは、学生たちの興味度について1年次生は「精神文化」と「芸術文化」に深い関心を示しており、これは最近の K-POP やドラマなどによる韓流ブームのシナジー効果と考えられる。他の領域は大体同じ結果を表した。一番興味低い領域としては、「韓国文学」である。この領域は今まであまり接する機会がないことからこのような結果になったと思われる。

2年次以上の学生が、「自然と産業技術」の領域に高い興味を示しているのは、少し専門教育を受けて後に文化の科目を受講したことでこの領域への興味が高まったと思われる。これに比して、その他の領域はほとんど変わりがなかった。

このように学生たちの各領域別興味度調査から明らかになった内容を含め、今後、韓国文化教育研究の方向及び課題を最大限に達成できる具体的な項目として、次のように示すことができる。

第一に、文化教育の内容と方法は、教育場所及び学習者の学習目標によって異なることから外国の学習者の場合、情緒的に安定した状態で韓国文化を学習するための正確な情報提供及びそれに対する理解が重要である。ただし、多文化の完全な理解は不可能であり、文化交流を通して発展させるべきである。第二に、生活文化を取り扱うべきであり、個人的な人生の脈絡を扱うことと探る方策を模索しなければならない。第三に、価値観と行動方式の違いを通じて比較し、自分の観点と他者の視点間の違いを把握しなければならない。第四に、現代韓国文化について、経済主義と物質主義の実像を把握することも重要である。第五に、伝統文化は持続と変化を繰り返すことを理解させることが大事である。

最後に、韓国の文化授業は、適切な教材もなく、限られた時間に比して教える内容は多い。したがって、学生たちに効率よく教えるのは難しいが、各領域から適切な内容を選んで必要な知識を与えることが重要な課題である。

〈資料〉

〈アンケート用紙〉

韓国の文化と社会の領域

専門

学籍番号

姓名

大文字のタイトルは、興味順の数字 1,2,...小文字のタイトルは、興味ある項目に○を複数可能

韓国の精神文化()

- 韓国人の価値観()
- 韓国人の民族性と情緒()
- 韓国人の思想()
- 韓国人の宗教と意識文化()

韓国人の言語文化()

- 韓国語の文字()
- 敬語法()
- 韓国語の文化語()
- 韓国の諺()
- 韓国の隠喩()
- 韓国の独特な言語表現()

韓国の芸術文化()

- 韓国の音楽()
- 韓国の美術及び工芸()
- 韓国の舞踊()
- 韓国の演劇()
- 韓国の映画()

韓国の制度()

- 韓国の教育制度()
- 韓国の行政制度()
- 韓国の法制度()
- 韓国の言論制度()

韓国の歴史()

- 古朝鮮()
- 三国時代()
- 統一新羅時代()
- 高麗時代()
- 朝鮮時代()
- 日帝強占期(1910.8-1948.8)と独立運動()
- 光復以後()
- 1980年代以後()

韓国の文学()

- 古典文学()
- 開花期文学()
- 現代文学()
- 文学と文化教育()

韓国の自然と産業技術()

- 韓国の自然と気候()
- 道路と交通()
- 韓国の都市()
- 橋梁と建物()
- 韓国の産業と技術()

韓国の文化財()

- 文化財の概念と類型()
- 無形文化財の性格と種類()
- 有形文化財の性格と種類()

参考文献

- 綾部恒雄. (1995). 『文化人類学と人間』 三五館、12、(P.51)。
王少鋒. (2000). 『日・韓・中三国の比較文化論』 明石書店.(pp.9-10).
권오경. (2006), 「한국어교육에서의 한국문화교육의 방향」, 한국문학언어학회 『어문논총』
45 호 pp.397-399
박영순. (2006), 『한국어교육을 위한 한국문화론』, 한림출판사.pp.14-28.
강승혜 외. (2010), 『한국문화교육론』, 형설출판사.pp.36-48.

(金沢工業大学 基礎教育部)

mdnagano99@yahoo.co.jp

韓国語教育研究 第9号

ISSN 2186-2044

2019年 9月 10日 印刷

2019年 9月 15日 発行

発行 日本韓国語教育学会
〒577-8052 大阪府東大阪市小若江 3-4-1
近畿大学 国際学部 酒匂康裕 研究室気付
e-mail: jaklemejiro@gmail.com

編集 韓国語教育研究編集委員会
(委員長 /金世徳 kim0120sdjp@yahoo.co.jp)

印刷 株式会社 仙台共同印刷
〒983-0035 宮城県仙台市宮城野区
日の出町二丁目 4-2
TEL 022 (236) 7161 (代) / FAX 022 (236) 7163